

公表) 児童発達支援センターくるーる(放デイ)における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センターくるーる			
○保護者評価実施期間	令和6年11月1日		～	令和6年12月16日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数)	4
○従業者評価実施期間	令和7年1月4日		～	令和7年1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	16	(回答者数)	16
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月20日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個に合わせた支援の提供 一人ひとりのニーズに沿った支援の提供	・職員間での個別支援計画の共有 ・個別療育から集団療育へつなげていく ・遊戯室や園庭で身体をしっかりと使った遊びの提供	クラス内だけではなくクラス間でも連携、情報共有を図り、お子さんに合った支援ができるようにする。
2	専門性を活かした支援	・困った時には職員間で相談している。 ・職員それぞれの専門性(保育士、社会福祉士、作業療法士等)を活かし支援に取り入れている。	それぞれの専門のスキルアップ
3	就学の際に園や学校との連携	・就学前にスクラム会議等で就学先と情報共有し連携を図っている。	必要に応じて面談等で保護者からの聞き取りや園からの情報を聞き取る。スクラム会議等で連携を密にしていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	小学生に対する支援方法が乏しい	支援方法のアイデア不足	職員のスキルアップ
2	医療機関との連携が薄い	就学後に医療と繋がっている利用児が少ない。 医療面での必要性があまりない。	医療機関と連絡をとっていく。 相談支援専門員と連携していく。
3			

公表) 児童発達支援センターくるーるにおける自己評価結果(放デイ)

事業所名		児童発達支援センター くるーる		公表日		令和7年3月24日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	14	2	・小学生だと人数が発見より少し多くても狭く感じることがある。	基準に定められた面積以上のスペースを準備しています。お子様へ提供する活動内容によって、工夫しながら活用していきたいと思えます。	
	2	利用定員やお子様の状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	16	0		スタッフの働き方も重視しながら、お子様の支援に支障が出ないように配置は工夫しています。お子様が過ごしやすい、スタッフも働きやすい事業所を目指していきます。	
	3	生活空間は、お子様にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	16	0		建物内はバリアフリー設計となっています。教室内もお子様が発達しやすい動線となるように配慮しています。お子様に怪我等がないよう常に環境には配慮していきます。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、お子様達の活動に合わせた空間となっているか。	16	0	・エリアわかれている。	清掃スタッフを配置し、日常的に清掃、消毒ができるようにしています。感染症がはやる時期には特に消毒の徹底をしています。	
	5	必要に応じて、お子様が個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	16	0		部屋を別に準備することは難しいですが、クラスごとにお子様たちが落ち着いて過ごせるエリアや活動を準備するようにしています。今後もお子様ひとりひとりに合った活動を設定していきます。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	16	0		日々支援の振り返りを行っています。スタッフの業務上十分に時間が取れない日もあるため、効率よく業務を遂行できるように検討していきます。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	16	0		保護者の方からの評価はホームページ上で公表していますが、更に必要とされるサービスを提供するためにスタッフ研修の場などで活用していきたいと考えます。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	16	0		スタッフとは年に4回個別面談を実施しています。面談のタイミング以外でも、日常的に相談しやすい環境を整えることができるようにコミュニケーションをとっていきます。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	12	3		高梁市手をつなぐ親の会からの評価をいただいています。今後も、外部の方に積極的に事業所を見ていただき、客観的な評価を頂く機会を作りたいと思えます。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	16	0		定期的に研修の機会を作っています。パートスタッフはすべての研修には参加しづらい状況もありますので(特に業務後の研修)、講師とも相談し日中に研修を受けることができるように工夫していきます。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	12	2	・作成中、今年度中に作成。 ・プログラムの作成、公表されているが、具体的な細かい部分の対応に迷うことがある。 ・作成中。	令和6年度に作成が完了しています。プログラムの内容を今後も共有していきます。	
	12	個々のお子様に対してアセスメントを適切に行い、お子様と保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	15	0		「できた」「できなかった」だけでなく、どんなところに気づいているか、どんなことに興味をもつことができるかなど広い視点でアセスメントをとることができるように技術を高めていきたいと思えます。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、お子様の支援に関わる職員が共通理解の下で、お子様の最善の利益を考慮した検討が行われているか。	16	0		どのスタッフも支援計画の内容について十分把握し、適切に支援できるように、スタッフが話し合いをできる時間の確保に努めます。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	16	0		計画の進め方やお子様の成長の状況について共有することで、方向性にずれがないように話し合いの機会を更に強化していきます。	
	15	お子様の適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	16	0		定期的にとるアセスメントだけでなく、日常のお子様の様子から成長や課題を確認するようにしています。スタッフそれぞれの専門性を大切にアセスメントをしていき支援につなげていきます。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、お子様の支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	16	0		お子様だけでなく、ご家族や地域での支援は大切にしています。スタッフがガイドラインを常に確認できるように整えていきます。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	15	1	・目標はあるが、活動プログラムは対象者の特性上、前もって決めていても難しいこともあり、大まかに決めている。	日々チームで話し合いをするようにしています。一人の視点に偏らない支援を心がけています。
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	15	1		同じ活動の中でもお子様の成長に合わせて、スタッフの関わりを変えたり、活動に少しの変化を加えることができるようにしています。スタッフが支援に行き詰まった時には相談しながら取り組めるようにして行きます。
	19 お子様の状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	15	1	・対象者が1人であるため、集団活動は難しい。	常に地域での生活をイメージしながらの支援を心がけています。そのために、園や家庭の状況を十分に間かせていただくことを今後も大切にしていきたいです。
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	16	0		支援の前後にはスタッフで支援の内容を確認しています。どのスタッフでも同じように支援を提供できるようにスキルアップに努めています。
	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	15	0	・他クラスのスタッフに協力してもらって、振り返りの時間ができるように調整されている。	支援終了後に話をする時間をつくり、その日の振り返りと次回の取り組みについて検討しています。お子様の成長段階に合わせた支援内容のアイデアを出すことができるように話し合いをしています。
	22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	15	0		連絡ノートに加え、支援記録を整えています。記録することにとられすぎず、検証できる時間を充実できるように時間配分を行っています。
	23 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	15	0		支援計画の期間の半期(2ヶ月から3ヶ月)で中間評価を行っています。中間の時点で達成できた場合は、計画の見直しを行っています。
	24 放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	14	0	・ガイドラインの更なる確認が必要。	ガイドラインを確認しながら支援方法を検討するようにしています。まだ不十分な点もあると思われるため今後もスタッフ間で共有しながら支援の方向性を検討していきます。
	25 お子様自身が自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	16	0		事業所内の行事や活動内容の中でお子さんが自分の気持ちを伝えたり選択できる機会を作っています。お子さまの希望も聞きながら活動内容を設定しています。
関係機関や保護者との連携	26 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのお子様の状況をよく理解した者が参画しているか。	16	0		相談支援専門員とも情報共有を行い、ご家庭や所属園の様子を確認しています。それぞれの状況を確認することで、優先すべき課題について一緒に整理していきます。
	27 地域の保健、医療(主治医や協力医療機関等)、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	16	0		高梁市内に専門の医療機関がないこともあり十分な連携が取れているとはいえない状況です。今後、リハビリの状況などを共有できるように連絡調整を強化していきます。
	28 学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、お子様の下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか。	16	0		年度はじめに学校の年間行事を可能な限り確認させてもらっています。送迎についてもそれぞれの学校により送迎場所や対応方法が違うことがあるため、ご家族、学校、事業所で共有しています。
	29 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定お子様園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	16	0	・就学前から継続の利用児が多いため、情報共有はていねいにできている。	就学前には、スクラム会議を実施し園と児童発達支援事業所、保健師等と今までの育ち、できるようになったこと、特性などの共有をしています。
	30 学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	15	0	・分からない。	卒業やサービス終了、他の福祉サービスの移行、就労への移行の時などスクラム会議を実施し必要な情報を共有しています。
	31 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	16	0	・PT、保育士によるアドバイザー事業。	児童発達支援センターは同じ法人内であることもあり、研修や支援内容の検討などは日常的に行っています。
	32 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のお子様と活動する機会があるか。	12	3	・法人行事に地域のお子さんも参加してくれている。	学童を利用されているお子さまは、学童での様子を確認させてもらい、支援が必要な場合は一緒に検討しています。事業所と学童の子ども同士の交流は行っていないため、今後必要に応じ検討します。
	33 (自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。	14	0		自立支援協議会 児童部会に引き続き参加して行きます。
	34 日頃からお子様の状況を保護者と伝え合い、お子様の発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	16	0		送迎時や連絡ノートを活用してお子様の療育中の様子や成長を共有させていただいています。送迎サービスをご利用の方は、別の日に来所していただいています。ご家族と成長を共有できるように話し合いの機会を今後も作っていきます。
	35 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	16	0	・法人で実施。	毎年ペアレントトレーニングを実施しています。参加される人数が少ないため、今後広報に努めています。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	16	0		文章の多い書類については、わかりにくい点もあるため今後更に丁寧に説明を加えていきます。また、外国籍のご家族もおられるため説明の方法についても工夫していきます。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、お子様や保護者の意思の尊重、お子様の最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、お子様や家族の意向を確認する機会を設けているか。	16	0		幼児期は特にご家族の意向を多く聞かせてもらっているのが現状です。お子様の嗜好や楽しみなども聞かせてもらいながらお子様が楽しみながら利用できるように工夫していきます。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	16	0		計画、評価の時にはご家族に確認をしていただいています。日程を調整する時には、ご家族の生活の負担にならないように調整をしていきます。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	16	0		支援計画の評価、作成のタイミングではお話を聞かせていただいています。そのほかにもご家族の不安が軽減できるようにお声掛けできる機会を作っていきます。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	15	0		法人が事務局となる親の会を開催しています。周知不足の面もあるため、チラシの配布や活動内容を具体的に伝えるなどの工夫をしていきます。きょうだいの会は開催できていないため、今後検討していきます。
	41	お子様や保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、お子様や保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	16	0		ご家族から苦情や要望を頂いたときには、迅速に管理職と共有し対応するようにしています。お子様やご家族が安全に心地よく利用できるよう対策を検討しています。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をお子様や保護者に対して発信しているか。	16	0	・動画等でより情報が分かりやすくなっている。	SNSの発信については月に1~2回程度行っています。不定期になることが多いためご家族や地域の皆様に知っていただくため投稿回数を増やすことができるように努力していきます。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	16	0	・同じ事がないように、その都度対策できている。 ・SNS等に掲載の際は直前に確認している。	連絡ノートの渡し間違いなどがないようにダブルチェックをするようにしている。まだ、完全になくなってはいないため確認を徹底していく。
	44	障害のあるお子様や保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	16	0		外国籍のご家族には翻訳のツールなどを活用し適切に伝えることができるように工夫していく。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	16	0	・どうしても季節的に行事がかさなってしまう中、担当スタッフの協力で交流できている。	コロナ以降、事業所の行事には地域の方をお招きしていない。以前参加してくださった方などにお声掛けをすることで日常的な関わりを作っていく。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	16	0		マニュアルは作成しているが、定期的な見直しはできていない。研修等の機会をつくり、有事に対応できるようにしていく。
	47	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	16	0		必要な訓練は実施できている。定期的に見直しを行っていく。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のお子様の状況を確認しているか。	16	0		内服やてんかん発作の確認は行っている。予防接種の確認はできていないため、今後方法を検討していく。
	49	食物アレルギーのあるお子様について、医師の指示書に基づく対応がされているか。	16	0		医師からの指示はスタッフや厨房スタッフと共有するようにしている。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	16	0		安全計画についてスタッフに十分周知できるように掲示場所等を検討していく。
	51	お子様の安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	16	0		有事に安全に避難、対応できるようにご家族との連絡を日常的に密にしていく。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	16	0		担当者会議で共有したヒヤリハットを各スタッフに周知し、他事業所でも同じようなことが起きないようにしている。今後も継続して行っていく。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	16	0		虐待をできるだけ未然に防ぐために研修を継続して行く。また、スタッフが利用者に対して虐待をすることのないよう、日常的にスタッフ間でコミュニケーションを取っていくようにする。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、お子様や保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	16	0		身体拘束はせず、適切な支援で対応できるよう最大限配慮するように心がけている。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
自事業所の強みと感るところ				自事業所の弱みと感るところ	
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの人数に対する職員配置が多く、個別対応ができる。 ・一人ひとりの困り感に寄りそえる支援が行える。 ・家庭の状況によって送迎が難しい所は送迎に行く。 ・スタッフ各々が発言する機会があり、専門性を発揮できる。 ・色々な職種スタッフがいる。すぐ相談できる。 ・保護者や園などと密接に関わっているところ。 ・1人1人の利用者さんに対し、丁寧に対応している所。 ・幼児期から継続してご利用されている方が多く、引き継ぎがしやすい。 				<ul style="list-style-type: none"> ・事業所全体で就学前児童の利用が多いため、小学生への支援に対するアイデア不足がみられる。 ・女性が多く(くるー)体力のいる遊びは、たくさんできない。 ・ニーズに沿っているが、目標としている項目をこなすだけになってしまいがち。おもちゃが少ない。 ・わかばとすみれ、かりんとの情報共有が時間が合わず難しい。 ・小学生が楽しめる活動が少ない。 ・クラスごとで動くことが多いためか全体と考えると動く意識が薄いこと。医療面での専門性が難しい。 ・丁寧に対応しているが、職員数はいるはずなのに送迎や1人に対して1職員がとられ、全体を見る人が少ないと思う。 ・利用人数が少ない。遊びが合う友だちと設定しにくい。 	
工夫しているところ				弱み・課題と感じている点の原因	
<ul style="list-style-type: none"> ・研修を多く設けてくださり、無知なパートの勉強機会を作ってもらっている。 ・楽しく通えるような行事を行う。 ・子どもたちで協力(相談)してお菓子作り等をしているので、楽しく療育に來れている。 ・お子さんが楽しめるようにどんな活動をしたいか聞いて、取り入れるようにしている。 ・スタッフ一人一人が発言しやすい雰囲気づくり。 ・お子さんのその日の様子をスタッフ間ですぐに共有しているところ。 ・人がいない(職員が少ない)クラスに、他クラスの職員を配置する所。 ・学齢期に合った活動を提供している。 				<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じ、他事業所との情報共有、移行も検討していく。 ・支援者と保護者と本人のニーズのちがいや思いのちがいが見られる。 ・半日と全日の違い。 ・医療との連携はかかれていない。クラスごとでいっぱいいっぱいになっている。 ・書類を作成する時間があまりなく残業になってしまうところ。 ・丁寧に対応しているが、職員数はいるはずなのに送迎や1人に対して1職員がとられ、全体を見る人が少ないと思う。 ・休日の利用がメインであり、平日の放課後利用が少ないため。 	
更に充実させるために必要なこと					
<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの思いを共有する。利用している子に合わせた遊びを提供する。 ・スタッフ仲良く、思いやり。 ・職員1人1人のスキルアップが必要。 ・他事業所との交流があっても良いかもしれない。 					